



～訪問介護計画作成のためのアセスメント～

主催：東京都生活協同組合連合会

目的：利用者本位の介護ケアの実践に向けて、訪問介護計画書の作成は大変重要です。社会や介護現場を取り巻く環境の変化、認知症の方や家庭状況の変化が著しい昨今です。今回はアセスメントの基本を学び、サービス提供責任者として日頃の実践に活かせるような研修としました。

日時：2016年2月19日（金）

10時～16時30分

会場：東京都生協連

北新宿事務所7階会議室

受講対象者：訪問介護事業所サービス提供責任者

講師：山本 かの子氏

（ケアワークラボやまもと代表）

参加者：24名、9生協（事務局含む）

2015年度 訪問介護



講師：山本 かの子氏

プランを立てる上でアセスメントは非常に大切です。今日はその考え方をお話します。

☆タイムスケジュール☆

10:00 開会

10:10 研修開始

☆講義「訪問介護計画作成のためのアセスメント」

12:10 昼食休憩

13:10 グループワーク

16:00 修了式

16:20 閉会挨拶

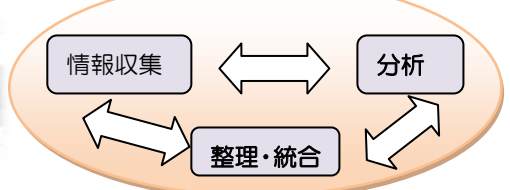
16:30 終了



進行：島袋さん
（東京保健生協）



開会挨拶：カ石さん



介護保険制度も15年が経過して疲弊して来ています。利用者さんの生活を支えるものが、ケアプランであり、そのプランは目標に基づいて具体的に作られ、居宅サービス計画に沿ったサービスの提供となります。訪問介護計画書と手順書の違いを理解し、利用者さんへわかりやすい説明をする。わかりやすい説明とは、その人が望んでいる事を担当者会議で共有し合う事で出来、利用者さんも私達をアセスメントしています。特に介護は専門用語が多く、お金が絡んでくる事なので丁寧に話す事が大切です。介護計画を作る時には、援助者は自分が置かれている状況を理解し、利用者が置かれている状況の理解にも努めるとニーズが分かって来ます。一言でニーズと言っても、本当にその人の思いなのか、身体・家族・環境等、何に困っているのかを把握し、生活自立度の一部介助が私達の仕事と捉えましょう。アセスメントシートからアセスメント（情報分析）を的確に把握する事が大切です。

休憩後：書かれた文字を読む、動体視力のテストを行いました。「いけくぶろ」「あきばはら」の2つでしたが、「池袋」「秋葉原」とわかっている物に関連づけてしまい、思い違いをしている事に気づきました。ケアプランは訪問介護計画書を作る基となるので、限りなくその人の事実に近づけ、間違えていたらその都度修正をかけ、その時の利用者さんを見る事が大切です。

事例

AさんとBさん二人の女性を基に、この人はどんな人？どんなサービスが必要？情報は？を隣同士で出し合いました。その人を取り巻く情報がより、入るとイメージが変わりプランが変わってくるので、家族状態の把握は重要です。1つの情報からいろんな事を考える想像力を膨らませる事が大事！で、思い込みや先入観は持たない。分析した時の根拠となる情報量は多い方が、選択肢が増える。何故そうしたいかを探り、五感（特に嗅覚）を働かせる事が大切です。



アセスメントの流れ：情報収集⇔整理⇔分析が三つ巴となり、経験値や知識が活きてきます。事実⇒観察⇒利用者の返事から課題が見えて来る。いつもと違った情報は、意識して取り、思考回路を巡らせて全体を捉えましょう。

ジェノグラムとエコマップ：磯野家の家系図を基に演習した後に、自分の家系図を書いてみました。ペットも大事な家族と捉え、誰がその家のキーパーソンとなるか、時々確認しましょう。家族関係については、折を見て聞いておきましょう。

グループワーク

見ただ目で判断せず、想像力を働かせよう！

自己紹介等を経て、1枚の写真から、「この人はどんな人？」なのか情報収集から整理統合を行いました。この人の想いは何でしょうか？を考え合い4つのグループから、分析した内容を報告した後で、その人の住む家を映した映像が映されました。「何が問題か」を考え、根拠のある支援計画を作り、情報は信頼出来るいろんな人と共有と分析をし、結論を出し事が重要です。この過程が無いと、ただのノウハウになってしまいます。



千円札・五千円札・一万円札を書いてみましょう！
あちらこちらから「硬貨はあるけど、お札は無い！」と声上がり、皆さん恐る恐る書き出しました。大きさは同じでも長さが違うんだ！と判明し、小さく書いた人、大きく書いた人には“こんな人像”があるようですが、それは秘密です。お金に対する価値観は、その人によって違うので、十分気をつけましょう！と話されました。



先生のまとめ



- ① ヘルパーとして、できる事とできないことがあるので、きちんと伝える事が大事です。やってあげたい気持ちが出たら、何故そう思うかを考えてみましょう。
- ② 自分の価値観と向き合しましょう！人の価値観を認めつつ、人として利用者さんと向き合う事が大切です。
- ③ 自己覚知：自分と向き合う事が不可欠です。基本に帰って謙虚に学ぶ事、人の意見を聞く、私は誰に対して、どこで何をやるかを確認しましょう。
- ④ 2つの想像力（考える）と創造力（作り出す）をしっかり身につけましょう。情報収集の統廃合、今やっている事を筋道立ててやってみましょう。悩んだ時にはゼロに戻って考えましょう。

心を動かす事が、私達の仕事です。心が動けば、体が動く。体が動けば心が動く事を話されました。

アンケートより



言葉がわかりやすく、自分なりのアセスメントを簡単にしすぎた事に気づきました/グループワークを取り入れながら、他事業所の方とも楽しく研修が出来ました/ノウハウではなく、考え方を学ぶ事は今までなかったので、とても良かったです/実践で役立つ話、反省すべき事等が学べ、とても勉強になるお話でした/自分の固定観念が強い事を思い知りました/価値観の押しつけもしていましたが、眠くなりませんでした/業務の見直しが出来た/思い込みで判断・支持を行っていた事を改善します/1つのことばから多くの想像が出来、頭を柔らかく考える/サ責としての役割や大切な事をポイントで挟んで頂けて理解が深まった/思い込みや先入観を持たず、利用者の「声」を感じていきたい/日常的に行っているアセスメントも改めて着眼する視点を学べました/事例や例題を盛り込んで、分かりやすくはなして頂き、勉強になりました/元気で明るい先生の講演、とても楽しく感じました/

まとめ



例年に比べて、参加者が少ない事は残念でしたが、参加された方は講師のお話に頷き、笑顔になって明日からのサ責業務につながったようです。日頃、わかっている事でも再度、わかりやすく話して頂き、皆さん納得に到ったようです。他事業所の方と話す機会もあり、自分の事業所について考え、見直すきっかけになったようです。先生が出して頂いたアセスメントシートについても、自事業所と比べて、どこが足りないかを見直す事ができたようです。

今回のアンケートに開催時期の希望を入れたのですが、ほとんど回答はありませんでした。どの時期も忙しく、ヘルパーさんが入れなければ、サ責が現場に入る事も珍しくないようです。人手不足が解消されなければ、参加したくても出来ないサ責ばかりになりそうですが、次回開催に向け、より多くの方に参加して頂けるように実行委員や現場の声を反映して考えて行きたいと思います。



閉会挨拶：実行委員長
本光さん（コープみらい）



修了証書授与

受講された皆さん一人ひとりに授与されました



講師と受講生の皆さん



2015年度 訪問介護サービス提供責任者スキルアップ研修会
「訪問介護計画作成のためのアセスメント」
東京都生活協同組合連合会

